
Destiny

桜咲 水穂

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Destiny

【Nコード】

N6531D

【作者名】

桜咲 水穂

【あらすじ】

暫く更新停止しますのであしからず フランスに、家族を殺され孤児院で育った少女がいた。だが、その少女は…とある、世界中が求め探していた、宝石を持っていた。そのことを知り、宝石を持つていることを隠していた…のだが。ついに孤児院の人間にそのことがバレ…少女はあらゆる手段を使って世界中に逃げ回ったが、ついに捕まってしまい…射殺された。宝石は奪われ、さまざまな人間の手に渡った。そこからは始まる物語。全ては、18年前ではなく、100年、200年、いや、それ以上前から始まっていた…

⋮
o

Prologue

フランスに、とある少女がいた

少女は、家族を全員殺され、孤児院で生活していた

そんな彼女が持っていた、唯一持っていたただ1つの所持品

それはビックジュエルで、世界中の人間が探し回るモノだった

その宝石は蒼く、神秘的だった

そして月に翳すと　　紅く光る、石が見える

少女は、それを手にした時、偶々月明かりに照らされ、蒼が紅に光っているのを見つけた

それを見、月に翳すと　　現れた、紅い涙

ボレー彗星近づく時、命の石を満月に捧げよ…　さすれば涙を流さん

不老不死、永遠の命が目的で、世界中の人間、いや、地球中の人間がそれを探し回っていた

そして、ある日

少女がその石を持っている事がバレ…

少女は逃げた、逃げた、世界中に、あらゆる手段を使って逃走し続けた

だが、ついに見つかってしまい…

必死に石を守った、死守した

…が

ついに少女は殺され…

その石は、世界中を渡り歩いた

P r o l o g u e (後書き)

初めましてっ！

文章、読めました？

まだまだまだまだまだまだ未熟者ですが、宜しく願います。
アドバイスとか、よろしく願いしまぁーす。

Stage・1

宝石を月に翳してみると、予想通り、いつも通りそれには何もなかった。

「…これもハズレ、か……」

モノクルは月に反射し、シルクハットとマントは風に揺れ…白装束に身を包んだ怪盗キッド。

目的は、父親を事故に見せかけ殺した組織と、永遠を手に入れることが出来る命の石・パンドラ。

だが、それは未だに見つからず…キッドも諦めかけていた。

それでも、諦めるわけにはいかず、白装束に身を包み、悪魔の石を見つけるために夜空を駆け巡っていた。

気を抜いたのも、抜けたのも一瞬の内。

パアン、という軽快な拳銃の音とともに現れた、黒服の男達。

そして…ゆっくりと口を開いた。

「さて、キッド。宝石を渡してもらおうか」

「……………おやおや…ようやく仕事が終わって帰れると思ったのですが…まだ、相手をしなければならぬ人がいましたか……………」

「いいから、宝石をさっさとこっちに寄越せ」

「嫌ですね。渡すわけないでしょう」

特に、あなた方のような人間にはね…

そう言い切る。

それが、男達の怒りを買うことになるかと分かっていながらも、あえてその言葉を口にした。

「何だと!？」

「あなた方のような人間には渡さない。……………そういう意味ですよ」
分かりませんでしたか？

クスクス…クスクス…

可笑しそうに笑うキッドを、男達は目を開いて見つめる。

そして、正氣に戻った頃には

「…用がないなら、帰りますか？」

「ま、待て！！宝石を、宝石を寄越せ！！」

「あなた方のような人間には渡さないと、言っているでしょう」

では…。

フワリ

風に靡いていたマントが音を立て、キッドは屋上から身を躍らせた。
…男達が見ると。

そこには誰もおらず、無人だった。

「金だ！！金を寄越せ！！」

「ヒイツ……………！」

「早くしろおっ！この女がどうなってもいいのか！！」

「キャアツ……………」

嫌っ…離して！

割られた窓、穴の開いた天井。

悲鳴に泣き声、パニックに陥った人々の声。

銀行強盗だ。

その中、1人の銀行職員が、机の下に手を伸ばす。

そこには、警察へ通報出来る、スイッチがあつた。

そのスイッチを押そうと、職員は見つからないように周囲に目を向けながら、そのスイッチに手を伸ばしたが。

ジャカ

そんな音とともにこめかみに押しつけられた電気の明かりを受けキラリと光る拳銃。

「…何をしているんだ？」

「あ…………あ…………」

ガタガタと、職員の身体が震え始める。

それだけの勇気がいり、それなのに拳銃を押しつけられ殺されそうになるのに恐怖を感じたのだらう。

…ん？

異変に気付いたのは、偶然だった。

偶々、気分でその道を通り、道の向こう側を見ると、妙に騒がしい。

ランドセルを背負ったまま向こう側まで渡る。

……………銀行強盗か！！

銀行強盗が押し入っているのを見ても、この小学生の身体じゃ何も出来ない。

それが、コナンにはもどかしかった。

ギリ・・・

強く歯を噛み締める。

暫くすると、奥歯らへんに血の味が広がった。

……………え？

銀行強盗が出てくると、所々から悲鳴が上がった。そして、人を避け強盗団は裏道へと入って行った。

コナンが銀行を眺めていた裏道へ……………。

「クツクツクツ…こんなに手に入ってたぜ？」

「ハハハッ！！案外簡単なもんだなあ、強盗」

「見る見る！1万円札だぜ、みんな！」

「こっちは借金取りに追われてるってんだ！明後日までに払わねえと、俺らに人生の明々後日はねえんだってんだ！！」
ハッハッハッ！！

路地裏に響き渡る高笑い。

ハッハッハッ

ハッハッハッ

ハッハッハッ……

それはビルとビルに反射して、暫く木霊していた。

「ああ、あちい……………」

強盗団の1人が、顔マスクに手をかける。

今まで、それで顔を隠していたのだ。

そして現れた、茶色い髪に、若い男の顔。

それに続き、他のメンバーもマスクに手をかける。

そしてマスクを全員が取り終わり……………

「……………ん？お、おい！兄貴！」

「あん？どうした？」

「あれ！坊主が見てるんすよー！」

「何！？」

男達の視線の先には…

コナンの姿が、あつた……………。

「よお、坊主……………」

「……………なあに？お兄さん」

ニコニコと、コナンは何も知らないかのように笑って言う。

「俺達と一緒に来てもらおうか……………」

今更、何も知らねえとは、言わせねえからな……………」

「……………」

眉間に拳銃を押しつけられる。

男の顔はニヤニヤ笑っていて、はつきり言っただけで気持ち悪い。

一か八かで、逃げ出そうと、コナンは車と男の反対方向に駆け出す……が。

呆気なく、捕まってしまった。

ちっ、と心の中で舌打をする。

「逃げるなよ……………？お前は俺達の人質なんだからな」

「わ……か……………り、ました……………っ」

「分かりやいいんだよ、分かりや」

男はそう言っただけで、ニヤリと笑った。

それが、コナンの演技だとも気付かずに……………」

Stage・1 (後書き)

どーもっ 桜咲水穂です

後、1ヶ月(も、ないか……)で新学年！

私の通っている学校は、伊豆大島にあります。
どこかは教えませーん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6531d/>

Destiny

2010年10月9日23時41分発行